文京学院大学人間学部研究紀要 Vol. 19, pp. 169 ～ 178, 2018. 3

教材としての絵本を検討する
―ジェンダー及びエスニシティの視点から読み解く―

松村　和子*

幼稚園，保育所，認定こども園などの保育室で読まれる絵本は，園や保育者によって選択された教材という側面を持っている．しかし，ある保育士研修会で持ち寄った絵本をジェンダーやエスニシティの視点から検討すると，主人公はまだ男の子（男性）が多いこと，そして，文化の多様性に触れるものはなかったことが明らかになった．ジェンダーに関しては，1981 年のグループ「橋」による分析と比較すると，今回の調査では主人公が「複数で女の子，男の子どちらも出てくる」，または「動物が主人公でジェンダーがわからないもの」が増えてはいるが，女の子が主人公というのは依然として少ないことが判明した．絵本の主人公だけではなく，そのストーリーや登場人物などに見るメッセ―ジ性や翻訳の際の問題などにもジェンダーの問題が隠れていることが分析された．エスニシティの多様性に触れたものは，持ち寄られた絵本の中には存在しなかった．最後にこれからのグローバルな社会を生きていく子どもたちに，ジェンダーやエスニシティの多様性を示す絵本を紹介し，それらを保育室に置いて，教材として意識化していくことを提案する．

Key words：教材，絵本，ジェンダー，エスニシティ，現代的課題

1. 初めに――問題の所在と研究の目的

幼稚園でも保育所でも，或いは小規模な保育ママの保育室にも絵本はいつだって置いてある．家庭でもその時々に買い求め，或いはプレゼントされ，外出の際の電車の中の必須アイテムにもなって，気付けばあちこちに散らばっている．さて，そんな絵本だが選ぶ基準はなんだろう．家庭ではその子の趣味嗜好に合わせて，電車の本，動物の本を，或いは親の好みで懐かしい絵本を買うということもあるだろう．しかし，幼児教育の場の保育者として絵本を購入する時や実際に読み聞かせをする時，どのような基準で選んでいるのだろうか．発達段階？季節のもの？行事？人間関係？言葉遊び？知育？楽しいもの？…いろいろと絵本を選ぶ理由はあるだろう．しかし，教材としての絵本にどのようなメッセージを期待しているかという点については，もしかしたら筆者たち保育者は案外無自覚なのかもしれない．この論文では保育室にある絵本を「教材」として見た場合に，そこに込められたメッセージ性を特にジェンダーとエスニシティの視点から分析する．この 2 つの視点は，現代社会の中で 21 世紀のグローバル社会で生きる子ども達の教育の場としての幼稚園・保育所・認定こども園で必ず必要とされるものである．最後に，保育の場で子どもたちがジェンダーやエスニシティの多様性に触れられる絵本を紹介する．

＊人間学部児童発達学科

2. 研究の方法

1） 2015 年企業系保育所保育士研修会で持ち寄った絵本 48 冊の分析と 1981 年グループ「橋」が行った調査をジェンダーの視点から比較検討する．
2） ジェンダーやエスニシティの多様性を表す絵本を検討する．

3. 保育室にある絵本の現状

1）ジェンダーの視点から

昨年度の保育学会（第 69 回大会，2016 年 5 月 8 日）において，筆者は「絵本にみるジェンダーは変わったか？」という題名でのポスター発表(松村，2016）で，現在の保育室にある絵本をジェンダーの視点から分析した．それらの絵本はある企業系保育所の 2015 年度 2 回の研修会に参加した計 108 人の保育所保育士に「自分の担当するクラスにある好きな絵本を 1 冊」持ってきてもらったものである．そして，研修会では 5 ～ 6 人のグループに分かれて，一つ一つの絵本の主人公のジェンダーを調べて討論してもらった．学会発表では，その結果を 1981 年にグループ「橋」が分析した絵本と比較検討した．1981 年当時は第 2 次フェミニズムのうねりが起こり，1975 年の国際婦人年を契機として日本でも様々な運動が行われ各地で学習会も開かれており，このグループ「橋」は豊中市の「1978 年秋蛍池公民館講座『現代の婦人問題』」を受講した人たちが講座終了後に自主的に作った学習会である．このグループが絵本の性差別を調べてみようと思ったのは，「2 ～ 3 歳の幼児に既に表れている男らしさ女らしさを見るうち，性別役割ひいては性差別の意識が，子供の幼い時期から大人の働きかけによって植え付けられていくと考えたから」（グループ「橋」，1981）だと言っている．この時にこのグループ「橋」が分析のために選んだ絵本は，「豊中子ども文庫連絡会編」のリストから幼児向きの楽しい絵本として紹介されたうちの 118 冊である．

今回の筆者の調査では，保育士が持参した「自分の好きな」絵本のうち，このグループ「橋」が調査した 1981 年以降に出版されたもののみで重複を避けた 48 冊（資料 1 参照）をとりあげた．このうち，主人公がはっきり男とわかるのは 22 冊（45.8％），はっきり女とわかるものは 3 冊（6.3％），ジェンダー不明（動物，植物，男女複数どちらも）は 23 冊（47.9％）であった．このうち主人公がクレヨン（資料 1 の（以下同じ）No.2 くれよんのくろくん），カバ（No.21 かばくんのほかほかおふろ），さつまいも（No.22 さつまのおいも），そらまめ（No.24 そらまめくんのベッド），キャベツ（No.43 キャベツくん），うさぎ（No.48 いいこってどんなこ？），というような野菜や動物など人間以外のものであっても，主人公は「～くん」と呼ばれる男の子（男性）という設定であった．

前述のグループ「橋」の調査で取り上げた 118 冊では，主人公が男であるもの 62.8％，女であるもの 13.6％，性別不明が 23.7％であった．今回の調査では，性別不明もしくは男女両方の主人公というものが 47.9％と半分近くを占め，1980 年当時の 23.7％と比べると比率は倍以上になった．主人公を男女どちらともとれるような設定にしていたり，複数で男女いたりする場合も増えたと言えよう．

しかし，1981 年から 36 年たった今回の調査でも，保育室にある絵本の大半が男の子，或いは男性を主人公にしていると言える．出版された絵本の全体を調査したならこの数字も幾分変わるかもしれないが，ここではあくまで保育者（あるいは園）が選んで購入し，保育室に置いて自分が好きだと思う絵本を持ってきてもらったものの調査である．そこには，保育者の選択の意志が働いているのである．保育士たちの討論の中でも，これほど男の子（男性）が主人公の絵本が多いとは思わなかったという感想が多々聞かれた．これは，絵本の主人公を初めてジェンダーの視点から考えてみたという事であり，保育中に子どもたちに読む「絵本＝教材」の選択をジェンダーの視点では考えていないという事でもある．

2）エスニシティの視点から

1）で分析した絵本 48 冊についてエスニシティの点から見ると，「No.7 やもりのモリー」，「No.18 ねこのピート」など主人公の名前が外国のものはあるが，それらは名前がそうであるだけで，文化の多様性を反映したものではない．つまり保育者が「これが好きだ」とあげる絵本には，世界にはさまざまな文化があるというような文化の多様性についてのメッセージを持つものはなかったという事である．まだまだ，外国の文化や民族の違いによる差別などを扱う絵本はあまりないのかもしれない．しかし，保育所や幼稚園の中で，外国籍の子どもたちが多く見られるようになっており，最近の実習訪問では，幼稚園で年少の 3 分の 1 が中国籍（東池袋），保育所では多国籍の子どもがいて「アレルギーならともかく宗教上食べられないものがあり，給食が大変」（北区）などの話も聞いている．日本でもすでに子ども集団が多民族化している園も多いのではないだろうか．移民問題などに現れる差別は外国のことではなく，日本でもヘイトスピーチの問題があり，世界的なテロへの敵視から，特定の宗教への差別感情などがある．それぞれの国には文化や言葉があり，その多様性を理解し互いに尊重し合うような心情を幼少期から育成したいものである．確かにお互いを分かり合うことは容易なことではないが，少なくとも初めから敵対視するのではなく，相手のことを知ろうとする姿勢，文化の多様性があることを理解する態度を育てたい．保育所，幼稚園，認定こども園や小学校の低学年での英語活動をしているところは多いが，次期の学指導要領改訂ではそれに加えて 5, 6 年生には評価を伴う教科としての外国語（英語）が，3, 4 年生には外国語活動が導入される．国際理解教育と言うと英語の語学教育だと思われることが多いが，筆者は「英語が出来る＝国際理解がある」という事では決してないと考えている．語学の得手不得手より，むしろ出会った相手の文化や宗教，物の考え方などに興味を持ち，相手をよく知ろうとする姿勢こそが国際理解につながると思う．言葉はツールである．語学が出来ることに越したことはないが，それだけで多様性が理解できるわけではない．幼少期には，幼少期の国際理解教育があり，その教材として普段の保育の中で読む絵本を意識して選び，民族の多様性，考え方の多様性を伝えるものがあるとよいと思う．さらには障がいや性的少数者などの多様性にも波及していくのではないかと期待している．

4. 絵本選択に求められるジェンダーの視点

1）絵本のもつ隠れたメッセージ

先にあげたフェミニズムの流れの中で，幼児教育を始めとする学校教育の中でのジェンダーバイアスやジェンダーの社会化については，多くの議論がなされてきた（松村，2017 刊行予定）．その中でもとりわけ，学校教育における家庭科や体育の男女共修などのカリキュラムの男女平等，そして教師・保育者の言動や幼稚園・保育所における男女による色分けや名簿などの隠れたカリキュラムの中でも明示的なものについては，研究・研修によってずいぶん改善されてきた．3. で上げた絵本の主人公の性別などは明示的なものなので，前述した保育士研修会においても，参加者は何気なく自分たちの持ち寄った絵本の中を改めてジェンダーという視点で見て，主人公にこのような男女の偏りがあることに驚いていた．しかし教材，なかでも絵本においては主人公が男か女かという明示的なものだけではなく，ストーリーや絵に潜む隠れたジェンダーバイアスについては意識されないことが多い．

まず，初めに主人公以外の登場人物についてみてみよう．例えば，とよたかずひこ（1997）の「No. 4 でんしゃにのって」では，うららちゃんという女の子が一人で電車に乗っておばあちゃんに会いに行くという話で，一見，「電車，女の子，一人旅」という従来のジェンダー観に囚われない発想，女の子の冒険ものとして描かれるのかと予想する．しかし，うららちゃんが電車に乗っているだけで何も事件は起こらず，しかもその電車に次々に乗ってくるのは子どもを連れたワニ，ゾウは言うに及ばず，ひとりで乗ってくるクマ，ウサギ，ヘビに至るまで，全員スカートをはいてハンドバッグを持った女性なのである．そして，居眠りして降り損ないそうになるうららちゃんを親切にも起こしてあげ，落とした切符を拾って渡し，駅のホー

ムに迎えに来ているおばあちゃんと無事に会えるのをにこにこと見送る，まことに春の1日を思わせるかのようなうららかな話である．登場人物はオール女性キャストで，あたかも「子どもの世話をするのは女性」というメッセージが込められているのかと思う．なぜ，一人も男性が出てこないのだろう．親切な男性，子どものことを気に掛ける男性はいないのだろうか．その他，「No.16 パンツのはきかた」，「No.40 いないいないばああそび」なども，子どもを相手にして登場するのはお母さんである．「No.9 パンダ銭湯」は，父，母，子の3人のパンダが銭湯に行くのだが，男の子とお父さんのパンダが男湯に入る話で，これは父親が子どもの面倒を見ている例外的ともいえる絵本である．

次に女の子を主人公にしている絵本での主人公の描かれ方を見てみよう．1980年以前の絵本でも，にしまきかやこ（1969）の「わたしのワンピース」や筒井頼子・林明子（1976）の「はじめてのおつかい」など，女の子が主人公になっているものがあるが，どれも家庭内での家事手伝いに端を発している話であり，そこの域にとどまっているのは，その時代ならではであろうか．

２）翻訳の際の問題――時代および翻訳者のジェンダー意識

絵本のジェンダーの視点からの検討をしていく中で，翻訳物の絵本について原語（英語）では主語は“I”が使われ性別がわからないが，ストーリーや絵のタッチなどで日本語への翻訳の段階で「ぼく」になったのかというものがあることに気がついた．例えば，資料1にある「No.11 ちがうねん」と同じ作者Jon Klassen（2011）の“ I WANT MY HAT BACK”では英語の主語が“I”であるが，その本の長谷川義史訳の「どこいったん」では，主人公のクマも準主役のウサギも，その他登場人物は，カエル，キツネ，ヘビ，モグラ，シカなど主語を使わないカメを除いて全て「ぼく」になっている．確かにJon Klassenの描く動物たちはクマを始め，ウサギもカメもお世辞にもかわいらしいものではなく，大きさや渋い色使い，ストーリー（最後にクマがウサギから帽子を取り返し，ウサギの姿は消える）からも，男性性をイメージしているのかとは思う．このストーリーの最後の部分は「ウサギは消えるのである…つまり，クマがウサギを消した？ということ」であろうか．英語版では”I wouldn’t eat a rabbit”（Klassen, 2011），日本語版では「うさぎなんかさわったこともないで」（クラッセン，2011）となっていて，そう考えるとどきっとする話なのだが，そこが男性性と結びついてよいのかという一抹の不安もある．

Jon Klassen自身が絵本に登場する動物のジェンダーを男性と考えたのかもしれないが，日本語に翻訳する時に“I”に対して，すぐに「ぼく」にせずにジェンダーにこだわった翻訳も可能性としてはあるだろう．長谷川義史の大阪弁による翻訳自体が絵本の世界では珍しいものであるが，主語まで大阪弁にしてしまい，例えば男女共用の関西弁一人称「わて」などにする手もあったのではないだろうか．しかし，それでは関西以外の子どもたちには普段の日本語としての理解が難しいものになると考えたのかもしれない．日本語の一人称にすでにジェンダーがあることのむずかしさがある．日本語一人称の「わたし」は男女ともに使えるが，男性が使う場合は大人の言葉であるので，幼児にとって，「わたし」といえば，女の子，或いは女の人をイメージさせるだろうから，この絵本の文脈からは使えないのであろう．この日本語訳では原語（英語）の絵本よりさらに，男性性が高まっているのではないかと思う．

前述したJon Klassen「No.11 ちがうねん」（原題“THIS IS NOT MY HAT”2012）も大きな魚の帽子を気に入った小さな魚が「盗ることは悪いことだけれど，でも欲しい」と思い，「大きな魚には小さすぎる」とか「帽子のことなど気がつかないだろう」などと自分に都合の良い言い訳をしながら盗んで逃げるが，最後は見つかって帽子は取り戻され，小さな魚は消えるというストーリーで，最後に怖い落ちがある．この絵本は2013年にコルデコット賞（米国），2014年にケイト・グリーナウェイ賞（英国）をダブル受賞していて，それは絵本史上初めての快挙とされている．このように絵本の世界で高い評価を受けているのには，どのような理由があるのだろうか．この絵本の面白

さは，ストーリーそのものもハラハラするし，日本語訳の本の帯に翻訳者の長谷川義文が「なにがちがうねん．とったら　あかんやろ」と書いているように，読んでもらう子ども達も大きい魚と小さな魚の身になって，あれこれ考えるところにあるだろう．この絵本は小さな魚の言葉だけが文章として書かれていて，大きい魚はほとんど目の動きだけで気持ちを表している．原語（英語）では，小さい魚が “This hat is not mine, I just stole it.”（Klassen, 2012）というように “I” で語り，大きな魚 は ”He was asleep when I did it”（Klassen, 2012）と小さい魚から見た 3 人称 “He” で示されているので，大きな魚は男性であることがわかる．そして，例えば，小さな魚が最初に帽子を盗んだ後，文章では小さな魚の「きっとまだねてるわ」（クラッセン，2012）と言う言葉があるが，描かれるのは，大きな魚がしっかりと目を開けて「ん？」と異変に気付くという絵になっている．書かれている言葉（小さな魚の気持ち）と描かれる絵（大きな魚の目による気持ちの表現）が裏腹であり，「大人は言葉を読む」が，「子どもは絵を読む」と対になっていて興味深い．このようにこの絵本には，文章と絵，大人と子どもの関係性というメッセージが読み取れるのである．この絵本では，小さな魚のみが “I” と言い，大きな魚も他の唯一の登場人物であるカニも言葉はないので，小さな魚から見て “He” が使われている．小さな魚は確かに色遣いなどから日本語に翻訳する時，「ぼく」にしてもいいかと思うが，ジェンダーにこだわった訳も一度は考えたいと思う. 翻訳をする時には，原作者と連絡を取り合うと思うので，Jon Klassen 自身がどちらの魚も「男性」と考えていると言ったのだろうか．それとも翻訳者が小さい魚も当然「男性」と信じて疑いもしなかったのだろうか．この翻訳者のみならず，絵本には文字情報が少ないので，かえって少ない情報をどう訳すかについては翻訳者のジェンダー観が大いに影響してくるのではないかと思う．この点についても検討する必要があろう．

逆に英文ではジェンダーがはっきりとしているのに，日本語訳ではどちらともわからないものもある．Eric Carle（1969）の The Very Hungry Caterpillar（日本語訳「はらぺこあおむし」，1976）は，英文では主人公に “He” が使われて，あおむしがオスであることが初めからわかっている．筆者にはチョウは美しく優雅で女性イメージがあるが，オスのあおむしだと思うと，最後に美しいチョウになるところに意外性があると感じる．一方，もりひさしの日本語訳では主語は「あおむし」となっていて男女を明確にはしていないので，読み手によってムシであることから男性のイメージを持つ人，最後にチョウになるところから女性をイメージする人など，その人の持つジェンダー観によってあおむしのジェンダーをイメージするだろう．或いはムシという事でジェンダーはイメージしないということもあるだろう．この様に, 翻訳一つで, 子どもたちに与えるジェンダー観が違ってくる.

もう一つ翻訳の例をあげよう．誰でもが知っている「ちいさなうさこちゃん」は，オランダのディック・ブルーナが 1955 年に出版した絵本で，日本では 1964 年に石井桃子が訳している．主人公はオランダ語で nijntje pluis（ナインチェ＝小ウサギ，プライス＝ふわふわ）という名前である．両親は原語のオランダ語では ”vader pluis”（プライス父さん＝ふわふわ父さん），”moeder pluis”（プライス母さん＝ふわふわ母さん）であるが，石井桃子訳ではお父さんは「ふわふわさん」，お母さんは「ふわおくさん」，いわゆる「ミセスふわふわ」という名で，その名前はもうすでに子どもとの関係性（母親）を示す名前ではなくなっている．英語版 miffy では Mr and Mrs Bunny となっている．石井桃子はオランダ大使館に行って，オランダ語を読んでもらってその音にあうように翻訳したとされているので，オランダ語の ”vader pluis”, moeder pluis” を当然知っていると推察されるが，英語版に影響されたのだろうか．ここでも翻訳の時の時代性や翻訳者のジェンダー観が隠れているのではないかと思う．ストーリーについても，2010 年に改版されたものもお父さんは庭で花を育てる（生活の生業というより趣味の様である），お母さんはおうちの仕事，掃除して，町に食料の買い出しに出かけるという家事をする人として伝統的なジェンダー観で描かれていて，これ

は原作が1955年(改版1963年)であることから，時代性であろうか．原作者のディック・ブルーナは2017年に亡くなったが，今新たに描くなら彼はどういうストーリーにするのだろうか．

5. これからの保育室に必要な絵本とは

１）女の子も活躍する絵本

これまで述べてきた絵本に描かれる女の子，女性像に関して，現在のジェンダーの視点から見直してみると，このようにいくつかの問題点が指摘されるが，絵本そのものを否定しているのではない．先にあげた「はじめてのおつかい」（筒井，林，1976）は，赤ちゃんの世話に忙しい母に代わって牛乳を買いに行く5歳の姉としての自覚や転んだり，お金を落としたり，店の人に気づいてもらえなかったりなどの不安，緊張，困難を乗り越えてミッションを達成することの喜びを語っている．同じ様に女の子が主人公の「はじめてのおるすばん」（しみず，1972）では，3歳の女の子がクマのぬいぐるみを握りしめて宅配便や新聞代集金の人などにドア越しになど対応する緊張感や不安が伝わってきて，それに耐えて一回り成長する姿が描かれている．そのような小さな子どもの初めてのお使いや留守番に対する不安や成し遂げた後の自信といった繊細な心の動きの描写には感嘆すべきものがある．また，「わたしのワンピース」（にしまき，1969）や「うさこちゃんシリーズ」（ブルーナ，1969～）での色使いやデザイン性などには思わず見入ってしまう楽しさがある．読者である子どもたちも共感しながら，絵本の世界に浸ることだろう．しかし，これは半世紀近く前に書かれた絵本なのである．今の時代には，これだけでは足りないものがあるだろう．男の子が主人公のくまたくんシリーズ（わたなべ，1979～1995）のように男の子が「ぼくおよげるんだ」「ぼくキャンプにいったんだ」「ぼくじてんしゃにのれるんだ」と，出来ることをどんどん広げていくように，女の子も自分の意志で活躍する，家の外へ冒険の旅に出るなどのことが当り前の絵本を保育室に置き，時々に読んでいくことが必要ではないかと思う．ちなみにこのくまたくんはおるすばんのときは，お父さんと一緒で楽しく過ごし，デパートで迷子になった時は母を探して泣くが，周りの人たちによって助けられ無事に母のもとに帰るという話である．ちょっとハラハラするが，暖かい周りの助けがあり，乗り越えていく．男の子がおつかいに行く「ひとりでおつかい」（しみず，1973）は，クマのぬいぐるみを抱きしめておるすばんをした女の子を描いた同じ作者しみずみちをが描いたものであるが，こちらは幼稚園のひよこ組の初めての遠足に行く男の子という設定から多分3～4歳であるが，明日の遠足のお弁当のサンドイッチのパンを買いに行く話である．家事手伝いではなく自分のものを買いに行く途中でいつもの店が閉まっていて困るが，通りすがりのおばさんに別の店を教えてもらったりして，無事にミッションを遂行する．女の子の方は自分の内なる不安に打ち勝とうと一人で格闘するが，男の子は周りの人に褒めてもらったり，助けてもらったりしながら無事に買い物をする．同じ冒険ものでも，女の子はその子の内面の心情の揺れ動きを，男の子は困難を乗り越えた自信を描くという扱い方の違いがある．

女の子が冒険する絵本では，例えばピエール・プロブスト（1999～）のカロリーヌシリーズでは，主人公のカロリーヌが仲間の動物たちと自動車レースに参加したり，月やキャンプや田舎や海に出かけていったりするちょっとした冒険物語が明るく，前向きに進んでいく．何気ない生活の中で，女の子が自分の意志で外へ出ていく話も読んであげたいものだと思う．

逆に男の子が，初めてのことに躊躇する姿や，お父さんと料理をする，小さい弟妹の世話をするといったようなことも描かれた絵本があると良いのではないだろうか．「パパと10人の子ども」（ゲッティエール，2001），「ママがおうちにかえってくる」（バンクス，2004）などは父親の育児が描かれている．

２）ジェンダーの多様性に気づく絵本

ジェンダーの問題は単に男性性，女性性という２分されるものだけでなく，性同一性障がいやLGBTという性の多様性という面も含んでいる．

幼児期にどのようにそれを紹介するかということは，必要とする時と場合があるだろうとは思っているが，日本性科学学会の理解マニュアル（1998）では，幼児期から違和感のある子どももいることは確かで，年長時になるとからかいやいじめにあったり，学童から中学生にかけてさらにその違和感が増してきて，当事者が周囲に理解されないことによって自己否定したりして苦しむことになるという．本人にも，廻りの子どもたちにも「ありのままの自分でいいんだ」ということを伝えたい．「はなのすきなうし」（リーフ，1954）は，闘牛として育てられたフェルジナンドが花の香を嗅ぐのが大好きで闘牛には向かなかったが，それもまた認められて牧場に戻るという話である．マッチョで，闘争的なことを要求される闘牛であるが，闘牛とは全く反対な花が好きという個性を認められるという，その子のありのままの個性を認めようというメッセージがある．この絵本の原作は，スペイン内戦中（1936）に書かれ，多分に反戦の意味も込められているのかもしれない．また，日本でも同性婚が認められ始め，保護者の中にそのようなカップルが存在する可能性もこれからはあるだろう．筆者が 1992 ～ 1993 年にイギリスのマンチェスター在住時に市の幼児教育施設へ出された通達（resolution）には同性婚の保護者への配慮が盛り込まれていた（松村，2000）．絵本でも同性のカップルが子育てをするニューヨークのセントラルパークのペンギンの実話を基にした「タンタンタンゴはパパふたり」（リチャードソン，2008）や王子様の結婚相手として現れたお姫さまについてきたお兄さんの方と結婚する「王さまと王さま」（ハーン，2015）など，LGBT をテーマにしたものも出ている．

家族を題材にしたものの中には，さまざまな家族のあり方を示す「たまごちゃん，たびにでる」（パルディ，2013）がある．生まれようとしている卵がシングルマザー，シングルファーザー，ステップファミリーなどさまざまな家族を見ていくという話である．両親と子どもというイメージの中の家族ではなく，現実の子どもの世界の多様な家族を「いろいろな形があるね」と見せてくれる．

また谷川俊太郎（1981）の「わたし」は，主人公が男の子から見たら女の子と呼ばれ，父，母，兄，ペットの犬，隣家のおばさん，学校の先生，商店の人など，廻りの人から見たらどう呼ばれるかと，関係の中で生きる人間としての私を見つめる絵本である．「女の子」というアイデンティティだけでなく，さまざまな人との関係性の中で「わたし」を捉えていて，多面的な自己の認識を呼び起こしてくれる．

その他，絵本とジェンダーについて考える時に参考になるのが，中川素子（2009）の「女と絵本と男」である．ぜひ，園に 1 冊置いて，絵本購入の際に参考にしてほしい本である．

３）エスニシティの視点から―文化の多様性を知る絵本

絵本とエスニシティについて考える時に参考になるのが「多文化に出会うブックガイド」（世界とつながる子どもの本棚プロジェクト編，2011）である．この文献では「文化ってなんだろう」，「一人ひとり違うんだ」，「アイデンティティって？」「国際協力って？」など，自分の国の文化と違う言葉や文化があることから始まって，この世界が多文化であること，そして，どのように協力したらよいのかを考える一助になる絵本から，アジア，アフリカ，アメリカ，ヨーロッパの各地の文化を知る絵本，各地の図書館での多文化理解，外国人への図書の貸し出しについて述べている．

その本に紹介されているアーサー・ビナード（2010）の「ことばメガネ」も絵本であるが，同じものを指すにしても英語と日本語では対象から受ける感覚が違うということを「とんぼと dragonfly」，「タツノオトシゴと seahorse」，「横断歩道と zebra crossing」などで示している．なるほど，軽やかなトンボが英語になった瞬間に火を吹く竜に，逆にタツノオトシゴは seahorse と名前を変えた途端，馬面に見えてくるから不思議である．横断歩道にシマウマを見るなんて発想は筆者には無かったなあと嘆息する．英単語を知ることで，逆に例えば，「とんぼ」という日本語の語源を知りたくもなってくる．園でも英語を導入しているところは多いので，5 歳児あたりだとこの絵本も面白く受け止められるかと思う．このような絵本

で物の見え方にはいろいろあるという柔軟な思考や表現力が養われるのではと思う．グローバル社会で考え方の違う人と出会った時も，拒絶からではなくどこかに共通点を見出そうとする対話の姿勢がうまれるのではないだろうか．

6. 最後に

これからの社会は，さらにグローバル化が進み，今までにない知識基盤社会になっていく．そこでは柔軟な思考と多様な人たちとの協同の精神が求められる．これは，来年度から施行される幼稚園教育要領，保育所保育指針，幼保連携型認定こども園保育・教育要領に共通に書かれている「幼稚園教育（幼児教育）において育みたい資質・能力」として掲げられている 3 つの学力の中の第 3「学びに向かう力，人間性等」（文部科学省，2017）に含まれよう．生き方の多様性（性別，民族，文化，障がいなど）に触れ，多くの人々との協同する姿勢を育てることが望まれている．幼児教育においてもグローバル社会を見通して，そのような絵本を教材として身近に置きたいものである．

本論文は，日本保育学会第 69 回大会（2016）においてポスター発表したものに，大幅加筆修正したものである．

引用文献

グループ「橋」（1981）．絵本に見る性差別，p.1.（自主出版）．

Klassen, J.（2012）. *THIS IS NOT MY HAT*, London: Walker Books Ltd.

クラッセン，J.，長谷川義史訳（2012）．ちがうねん，クレヨンハウス．

松村和子（2000）．イギリスにおける幼児期の男女平等教育　亀田温子，舘かおる編著　学校をジェンダーフリーに　第 11 章，p.240.，明石書店．

松村和子（2016）．絵本にみるジェンダーは変わったか？　日本保育学会第 69 回大会発表要旨集，p.1242.，日本保育学会．

文部科学省（2017）．幼稚園教育要領　第 1 章総則第 2　幼稚園教育において，育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」，フレーベル館．

参考文献

Banks, K.（text）, Bogacki, T.（illustration）（2003）. *Mama's Coming Home.* France: Foster Books.

（バンクス，K. 文，ボガツキ，T. 絵　木坂涼訳（2004）．ママがおうちにかえってくる，講談社）

ビナード，A., 古川タク（2010）．ことばメガネ，大月書店．

Bruna, D. Milton, T.（translation）（2014）. *miffy*, US: Simon & Schuster Children's Publishing,

ブルーナ，D. 石井桃子訳（2016）．ちいさなうさこちゃん，福音館．（1964 発行，2010 改版）

Eric, C.（1969）. *The Very Hungry Caterpillar*, New York: Philomel Books.

カール，E. もりひさし訳（1976）．はらぺこあおむし，偕成社．

グループ「橋」（1981）．絵本に見る性差別，（自主出版）

Gutettier, B.（1997）*Le Papa Qui Avait 10 Enfants,* Belgium: Casterman S. A.

（ベネディクト・ゲッティエール（2001）．パパと 10 人の子ども，ひくまの出版．）

Haan, de L., Nijland, S.（2000）．*Koning & Koning,* The Netherlands.

（ハーン，H.，ナイランド，S，文絵 アンドレア・ゲルマー, 眞野豊訳（2015）. 王さまと王さま, ポット出版．）

ひろかわさえこ（1994）．かばくんのほかほかおふろ，あかね書房．

木村裕一（1988）．いないいないばああそび, 偕成社．

岸田今日子　文，佐野洋子　絵（2007）．パンツのはきかた，福音館．

Klassen, J.（2011）. *I WANT MY HAT BACK,* London: Walker Books Ltd.

クラッセン，J.，長谷川義史訳（2011）．どこいったん，クレヨンハウス．

Klassen, J.（2012）. *THIS IS NOT MY HAT*, London: Walker Books Ltd.

クラッセン，J.，長谷川義史訳（2012）．ちがうねん，クレヨンハウス．

Leaf, M.（text）, Lawson, R.（illustration）（1936 ）. *The Story of Ferdinand,* US: Viking Press.

（リーフ，M. 文，ローソン，R. 絵　光吉夏弥訳（1954）．はなのすきなうし，岩波書店.）
Litwin, E.（text）, Dean , J..（illustration）（2010）. *Pete the Cat,* US: Harper Collins.
（リトウィン，E. 文，ディーン，J. 絵　大友剛訳　長谷川義文 文字画（2013）．ねこのピート，ひさかたチャイルド.）
松村和子（2017 刊行予定）．ジェンダーセンシティブな教育・保育へ，青木久子・松村和子　トポスの経営理論　第 2 部第 2 章，萌文書林.
Modesitt, J.（text）, Spowart, R（illustration）（1993）. *Mama, If You Had a Wish,* US: .Simon & Schuster Children's Publishing.
（モデシット，J　文，スポワート，R　絵 もきかずこ訳（1994）．いいこってどんなこ？，冨山房.）
中川ひろたか　文・絵（1995）．さつまのおいも，童心社.
中川素子（2009）．女と絵本と男，翰林書房.
なかやみわ　文 / 絵（2001）．くれよんのくろくん，童心社.
なかやみわ　文/絵（1997）. そらまめくんのベッド，福音館.
日本性科学会（1998）．性同一性障害理解マニュアル　2017, 09, 10　現　在　http:/www.geocities.co.jp/CollegeLife–Labo/7835/gid/rikai/rikai_0.html
にしまきかやこ（1969）．わたしのワンピース，こぐま社.
Pardi, F（text）, Altan, F. T.（illustration）（2011）. *Piccolo uovo,* Italy: Lo Stanpatello.
（パルディ，F. 文，アルタン，F. T. 絵，スリス，D.，大西佳弥訳（2013）．たまごちゃん，たびにでるイタリア会館出部.）
Probst, P.（1993）. *Caroline et son Automobile*，France: Hachette.（プロブスト，P 山下明生（1999）．カロリーヌのじどうしゃレース，BL 出版．うみにいく，つきにいく，キャンプにいくなどの全 25 巻シリーズがある）
Richardson, J. , Parnell, P.（text）, Cole, H.（illustration）（2005）*And Tango makes three,* US: Simon & Schuster Children's Publishing.
（リチャードソン，J., パーネル，P. 文，ヘンリー・コール絵　尾辻加奈子，前田和男訳（2008）．タンタンタンゴはパパふたり，ポット出版.）
世界とつながる子どもの本棚プロジェクト編（2011）．多文化に出会うブックガイド，読書工房.
しみずみちを　文，山本まつこ　絵（1972）．はじめてのおるすばん，岩波書店.
しみずみちを　文，岩淵慶造　絵（1973）．ひとりでおつかい，岩崎書店.
田村ゆう子（2014）．やもりのモリー，福音館.
谷川俊太郎　文，長新太　絵（1981）．わたし，福音館.
とよだかずひこ（1997）．でんしゃにのって，アリス館.
筒井頼子，林明子（1976）．　はじめてのおつかい，福音館.
tupera tupera（2013）．パンダ銭湯，絵本館.
わたなべしげお　文，おおともやすお　絵（1979）．ぼくおよげるんだ，あかね書房.
わたなべしげお　文，おおともやすお　絵（1981）．ぼくキャンプにいったんだ，あかね書房.
わたなべしげお　文，おおともやすお　絵（1989）．ぼくじてんしゃにのれるんだ，あかね書房.
わたなべしげお　文，おおともやすお　絵（1995）．くまたくんのおるすばん，あかね書房.
わたなべしげお　文，おおともやすお　絵（1995）．ぼくまいごになったんだ，あかね書房.

（2017. 9. 27 受稿，2017. 11. 6 受理）

資料１　第 69 回保育学会発表論文のための資料
（発表論文には紙面の字数の関係上，未掲載）
２回の保育士研修会で持ち寄った保育室にある絵本
（重複，1980 年以前の発行のものは省く）

No	題名（出版年）出版社	主人公の性別
1	だるまさんと（2009）　ブロンズ社	男
2	くれよんのくろくん（2001）　童心社	男
3	ねえ，どれがいい？（1983）　評論社	男
4	でんしゃにのって（1997）　アリス館	女
5	こぶたのおでかけ（2014）　福音館	？（写真）
6	ねずみくんおおきくなったら なにになる？（2007）　ポプラ社	男
7	やもりのモリー（2014）　福音館	？（布絵）
8	うそつきのつき（1996）　文渓堂	男
9	パンダ銭湯（2014）　絵本館	男
10	せみくんいよいよこんやです（2004）　教育画劇	男
11	ちがうねん（2012）　クレヨンハウス	男（魚）
12	だーれだだれだ（2002）　小学館	男（カバ）
13	うずらちゃんのかくれんぼ（1994）　福音館	女？（うずら）
14	にじいろのさかな（1995）　講談社	男？（魚）
15	まてまてももんちゃん（2013）　童心社	どちらとも
16	パンツのはきかた（2013）　福音館	女（ブタ）
17	バムとケロ（1994）　文渓堂	？
18	ねこのピート（2013）ひさかたチャイルド	男
19	のらねこぐんだんきしゃぽっぽ（2014）　白泉社	複数
20	おしくら・まんじゅう（2015）　福音館	？（饅頭・果物）
21	かばくんのほかほかおふろ（1994）　あかね書房	男
22	さつまのおいも（1995）童心社	男
23	ぺんぎんたいそう（2013）　福音館	？（ぺんぎん）
24	そらまめくんのベッド（1997）　福音館	男
25	おひさまあはは（1989）　こぐま社	？（動植物）
27	ねずみのいもほり（1984）チャイルド社	男女
28	へんしんトンネル（2002）金の星社	？（カッパ，ロボット～）
29	夢わかば（2008）音楽センター	主語が「ぼくらは」
30	だーれだだれだ（2002）　小学館	男
31	10 ぴきのかえる（1981）　PHP 研究所	？
32	ねむたいねむたい（2015）　福音館	？（野菜）
32	せんろはつづくどこまでも（2011）金の星社	男女（子ども６人）
33	へんしんオバケ（2006）　金の星社	？
34	モジャキのくすり（2014）ほるぷ出版	？（ゴリラ）
35	うしろにいるのだあれ（2003）新風舎	男
36	どうぞのいす（1981）ひさかたチャイルド	動物 複数
37	パパ，おつきさまとって（1996）偕成社	女
38	バスがきました（2007）　童心社	？（動物，人）
39	ぽんちんぱん（2014）　福音館	？（パン）
40	いないいないばああそび（1989）偕成社	動物，ママ，ゆうちゃん
41	でんしゃしゅっぱつ（2010）視覚デザイン研究所	男
42	しろくまのパンツ（2012）　ブロンズ新社	男
43	キャベツくん（1980）文研出版	男
44	あかくんやまをはしる（2015）福音館	男
45	あしたのぼくは（2006）　ポプラ社	男
46	はぶじゃぶじゃん（2011）そうえん社	男
47	ぴょーん（2000）　ポプラ社	動物・女の子
48	いいこってどんなこ？（1994）冨山房	男（うさぎ）